

## 第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスクいどがや保育園
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所	横浜市南区井土ヶ谷下町214-5 2F
設立年月日	平成24年4月
評価実施期間	平成24年7月～平成25年3月
公表年月	平成25年7月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
<b>総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）</b>	
<p>【施設の特徴】</p> <p>1. 園及び周辺的环境            平成23年度に開園し、定員90名、在籍82名の保育園である。京浜急行井土ヶ谷駅から徒歩2分の、環状1号線に面したチェーン展開するドラッグストアの2階に位置しており、建物の屋上全面を利用した園庭は、子どもたちが思い切り走り回れる場であり、デッキで囲まれた砂場やすべり台が設置されているほか、植物や野菜の栽培、夏のプール遊びの場ともなっている。また、天気の良い日は近くの公園や大岡川沿いの散歩道に出かけ、自然に親しんでいる</p> <p>2. 多様なプログラム            設置法人グループ内から派遣される専門講師による英語、体操、リトミックなどの保育プログラムを実施し、子どもたちは異文化に触れたり、思い切り体を動かしたり、音楽に合わせて自由な表現活動を楽しんでいる。また、栄養士によるクッキング保育を行い、屋上で様々な植物や野菜の栽培活動とあわせて、食育につながる体験に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【特に優れていると思われる点】</p> <p>1. 専門性を活かした地域支援と職員の意識向上</p> <p>①わくわくルーム            地域への子育て支援サービスとして、主に0～3歳の親子向けに「わくわくるーむ」を毎月開催している。保育士が親子ふれあい遊びや季節の製作を担当し、看護師が育児相談、栄養士が栄養相談などを行っている。</p> <p>②「大人講座」            地域の子育て支援NPO法人の出張プチ講座に保育室を提供して、地域の方と保護者向けに「大人講座」として、「夜泣き専門保育士による講座」や「ダンシング読み聞かせ」「骨盤ストレッチ」などの講座を行ない（年8講座）、毎回20組の参加がある。            職員もこれらの講座に参加しており、核家族の子育ての大変さを実感したり参加する保護者同士が知り合いになる様子などから、経験の浅い職員も地域支援や子育て支援の大切さを認識し、また、全職員のモチベーションアップにもつながっている。</p> <p>2. 子どもの毎日の様子を保護者に伝える工夫</p>	

保護者の迎えの際に、一人一人の子どものその日の様子を伝えることが昨年度からの課題であり、その改善策として、今年度は、全員の子どもの毎日のエピソードを記載する担任伝言表を作成した。それらを活用することで担任以外の職員も、一人一人の子どもの様子を保護者に伝言できるようになった。

利用者家族アンケートでは、職員の子どもへの対応で「お子さんが大切にされているか」及び「総合満足度」が100%となっており、上記取り組みの積み重ねにより、保護者に園の保育内容の理解が深まった結果と判断できる。

### 3. 子どもの自主性をのばす職員の声かけ

職員は、子どもを見守りながら発達に応じて穏やかに声かけしている。どうしようかと尋ねたり、そうだねと共感したり、褒めたり、励ましたりしながら、子どもが意欲をもって遊びに取り組めるように援助している。子どもと一緒に遊びながら、ルールがあることを伝えたり、相手を思いやる気持ちを育てている。(利用者本人調査参照)

#### 【特に改善や工夫などを期待したい点】

#### 1. 保育室内の遊びの環境づくりを

保育室内にも玩具は置かれていますが数は限られており、子どもたちに魅力的な玩具の多くはランチルームに整理、保管されています。ランチルームの玩具を各保育室に移動する等で保育室の玩具を充実させ、子どもたちが好きな玩具を自由に取り出して遊べる環境設定の工夫が望まれます。

#### 2. 子どもが視線を気にせず過ごせる場所の工夫を

保育室はゆとりのある広さを確保していますが、子どもが一人になりたい時や職員の目を気にせず過ごせる場所が、空きロッカーや家具の間などとなっています。衝立や家具の配置を工夫する等で、他の視線を気にせず過ごせるような空間の設定が求められます。

### 評価領域ごとの特記事項

#### 1.人権の尊重

- ・ 設置法人の運営理念「安心、安全を第一に」「いつまでも思い出に残る保育を」「本当に求められる施設でありたい」を掲げ、「子どもの自ら伸びようとする力」「後伸びする力」「五感で感じる保育の充実を目指す」ことを基本方針とし、それらは、利用者を尊重したものとなっている。
- ・ 職員は研修を受け、マニュアルの読み合わせを行い、また、職員会議やランチミーティングで、子どもの自尊心を傷つけるような保育を行わないよう、共通認識を持っている。職員は子どもの気持ちに寄り添い、同じ目の高さで話を聞き、穏やかにわかりやすく子どもに話しかけている。
- ・ 職員は個人情報の取り扱いや守秘義務について入職時に研修を受け、入・退職時に全職員が守秘義務について誓約書を提出している。ボランティアや実習生には守秘義務について誓約書の提出を定めている。
- ・ 保護者には、個人情報の取り扱いについて入園時の保護者会で説明し、ホームページに子どもの様子を画像掲載することについて、書面で同意を得ている。個人情報に関する記録は事務室の施錠できるロッカーに保管している。
- ・ 職員は虐待の定義を周知し、日々の子どもを観察する中で早期発見を心がけ、気が付いたことは視診表に記録している。虐待が疑わしい場合や明白になった場合は、設置法人、南区福祉保健センターこども家庭支援課、中央児童相談所に連絡し相談する体制がある。
- ・ 遊びや生活発表会での劇の役割、帽子の色など性別による区別はなく、子どもの意向で決めている。また、職員会議で性差について話し合い、職員

	<p>同士が注意し合っている。</p>
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各保育室に、年齢や興味に合わせた絵本の棚を設け、背の低い収納棚から遊具が取り出せるようになっている。乳児は布製の絵本やボール、ぬいぐるみ、太鼓など、2歳児は指先を使った穴通しやブロック、年長児は細かいパズルやトランプなどを用意し、子どもの興味や発達によって入れ替えを行っている。</li> <li>• 給食には旬の食材を使用し、子どもが完食の喜びを味わえるよう盛り付けの量を調節して、楽しく食べられるように配慮している。季節を感じる献立や彩りを工夫して、行事にあわせた特別ランチの日を設けている。</li> <li>• 園庭で野菜や植物を育て、イネやさつま芋、トマトなどを収穫してクッキング保育に取り入れ食育に繋げている。また、保育室に凶鑑を備え、カブトムシを飼育して関心を深めている。</li> <li>• 子どもの意見や興味を大切にし、子どもの自由な意見を受け止め遊びを決定している。</li> <li>• 体操やリトミックは年齢に応じた活動計画になっており、歌を口ずさんだり、リズムに合わせて体を動かすなど自由に表現している。</li> <li>• 天気の良い日は近隣の公園に散歩に出かけたり、園庭では砂場遊びや缶ぽっくり、縄跳び、三輪車などの遊びを取り入れている。</li> <li>• 朝夕の合同保育や日々の保育で異年齢児交流の機会とし、その他発達に合わせて行事や散歩、給食をともにするなど、計画的に異年齢の子どもが関わるよう配慮している</li> <li>• 子ども同士でトラブルになった場合は、双方の気持ちを受けとめ、うまく表現できない場合は職員が代弁して仲立ちとなり、できるだけ子ども同士で解決できるようにしている。</li> <li>• 排泄は、園ではトイレチェック表を用いて個々のリズムを把握し、トイレトレーニングは子どもの発達に合わせて、個別に対応している。</li> </ul>
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育課程は、保育の基本方針や保護者の就労状況、保護者支援や地域支援にも配慮して、作成している。保育課程の検討は、年度末の職員会議で各クラスで振り返った結果を基に行い、必要があれば改定している。</li> <li>• 0、1、2歳児、課題のある幼児については毎月個別指導計画を作成し、ランチミーティングや職員会議で話し合い、子どもの発達状況により保護者とも連携をとりながら、必要事項は柔軟に見直している。</li> <li>• 年2回行っている個人面談や日々の連絡ノート、送迎時の保護者とのコミュニケーションを大切にし、お迎え時には、クラスの「担任伝言表」に全員の子どものその日のエピソードを記入し、口頭で伝えている。また、クラスの保護者が気軽に思いを伝えたり、相談ができるよう雰囲気づくりに配慮している。</li> <li>• 保護者会、クラス懇談会は年3回、土・日に行い、クラス懇談会ではクラス目標や指導計画、日々の保育の様子などを伝え、保護者からも意見を聞いている。</li> <li>• 保育参観・参加は年2回、5日間の日程の中で都合の良い日程を選んでもらっている。クッキング保育や体操、リトミックの参観や、子どもと一緒に製作をしたり紙芝居を読んでもらう保育参加などに1日10名以上の参加がある。</li> <li>• 日程の都合がつかず参加できなかった保護者には、保育参観は随時できることを伝え、懇談会の内容は書面で伝えている。</li> <li>• 子ども一人ひとりの記録は、生育歴や家庭の状況などを記載した入園時の面接シート・児童票・児童健康調査表（身体測定記録、健康診断）などの</li> </ul>



	<p>成長記録をまとめて個別にファイルし、職員はいつでも見られるようにして保育に活かしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 業務マニュアルが整備されており、園舎内の衛生、安全の管理がなされている。看護師が常駐し、子どもの健康管理と職員指導を行っている。</li> <li>• 入所時に配付する「入園のしおり(重要事項説明書)」に、苦情解決窓口として設置法人の苦情受付先と南区福祉保健センターの連絡先を明記し、さらに、第三者委員に直接申し立てができる様に氏名と連絡先を玄関に掲示するほか、横浜市福祉調整委員会のポスターも掲示している。</li> <li>• 警備会社と契約を結び、防犯カメラ・通報ベルを設置し、散歩の時も緊急通報装置を携帯している。不審者情報は近隣の商店や井土ヶ谷小学校から連絡が来たり、南区こども家庭支援課から情報がFAX送信される情報ネットワークがある。</li> </ul>
<p><b>4.地域との交流・連携</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 近隣の商店には挨拶を励行し、散歩時の声掛けやハロウィンなどの行事に協力してもらっている。自治会に加入し、園長・主任が、餅つきに参加する他、散歩時に職員がごみを拾って歩くなど、近隣との関係を大切にしている。</li> <li>• 夏まつりや運動会のお知らせのポスターを近隣のスーパーや、掲示板に掲示し、地域の方に知らせている。</li> <li>• 運動会は井土ヶ谷小学校の体育館を借りて開催し、5歳児が電車に乗って弘明寺にある南区図書館を利用している。また、大岡地域ケアプラザを訪問し、デイサービス利用の高齢者と交流の機会を持っている。</li> <li>• 地域の子育て家庭支援を目的として、「わくわくるーむ」や「大人講座」を計画的に行っている。</li> </ul>
<p><b>5.運営上の透明性の確保と継続性</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 園のパンフレット「入園のご案内」にはサービスの詳細が記載されている。設置法人のホームページに園のサービス内容や保育の様子の写真を載せ、情報提供を行っている。</li> <li>• 設置法人のホームページで経営、運営状況が公開されており、誰でも見ることができる。</li> <li>• 業務マニュアル内に就業規則があり、職員の守るべき倫理・サービス規程を明文化して入職時に研修を行い、全職員に周知している。設置法人にコンプライアンス委員会があり、不正は直接通報できるしくみがある。</li> <li>• 設置法人が収集・分析した重要な情報は、園長会議で伝達され、園に持ち帰り全職員に報告している。他施設での不正事案などの情報は、設置法人より随時連絡があるほか、園長会議などで検討して園に持ち帰り、職員会議で話し合いの場を設けている。また、園長が新聞の記事を集め、ノートに貼って回覧し、職員のモラルアップを図っている。</li> <li>• 設置法人は、運営について業界関連機関や専門家などから意見を収集し、運営に生かしている。</li> <li>• 親子参加の行事後はアンケートを実施し、保護者の意向を確認しながら次回実施の参考にしている。</li> <li>• 毎年第三者評価を受審し、結果を公表している。</li> </ul>
<p><b>6.職員の資質向上の促進</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 設置法人が作成している人材育成計画があり、経験年数や役職により階層別研修のプログラムが組まれており、職員はその他希望研修と合わせて積極的に受講している。</li> <li>• 園外研修としては、横浜市の研修に参加して、カウンセリング法などを学んでいる。</li> <li>• 設置法人作成の「保育士に求められる役割と能力」に、職制と経験別の期待水準を明文化しており、職員は園長との面談で確認している。</li> </ul>

- 職員は、年間自己目標を立て、半期に1度振り返り、同時に園長は個別面談を行って目標の達成度を把握し、評価を行っている。
- 職員会議やランチミーティング、クラス毎のミーティングで、職員の振り返りをもとに話し合い、疑問点や問題点などの改善に、継続的に取り組んでいる。
- 毎日行われるランチミーティングで、保育方針とマニュアルを周知徹底し全職員が積極的に園運営に関わる資質づくりに取り組んでいる。

## 評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

### 評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</b></p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人の運営理念「安心、安全を第一に」「いつまでも思い出に残る保育を」「本当に求められる施設でありたい」を掲げ、「子どもの自ら伸びようとする力」「後伸びする力」「五感で感じる保育の充実を目指す」ことを基本方針とし、それらは、利用者を尊重したものとなっている。</li> <li>・保育理念を玄関に掲示し、職員は採用時に理念と基本方針について研修を受け、年度末に保育課程を見直す際には再度振り返り、理解の浸透を図っている。また、職員会議や毎日のランチミーティングで、サービス内容が基本方針に沿っているか振り返りながら実施している。</li> <li>・保育課程は保育指針に沿って作成し、保育の基本方針や保護者の就労状況、核家族や待機児童が多いことから保護者支援や地域支援にも配慮して、作成している。</li> <li>・保護者には、年度初めの保護者懇談会で年間指導計画とともに保育課程の説明を行い、年度途中で改定した場合は年度末の保護者懇談会で説明している。</li> <li>・保育課程に基づき、年齢別に年間指導計画・月間指導計画・週案を作成している。</li> </ul>
<p><b>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</b></p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園前に、保護者に子どもと一緒に来園してもらい、園長・職員・栄養士が個別面談を行い、職員は子どもの遊んでいる様子などを観察している。</li> <li>・面接で、子どもと家庭の状況を確認し、記録は個別にファイルして管理し、全職員で共有して保育に活かしている。</li> <li>・見学や入園前面接の際に、慣らし保育が保護者と子どものために有効であることを説明し、事情が許す限り保護者同伴の慣らし保育を行うようにしている。初日は2時間くらいから徐々に在園時間を伸ばし、0歳児保護者には昼食に同席して離乳食の様子を見てもらおうなど、個々の状況に合った方法を提案している。</li> <li>・0、1歳児の新入園児には特定の保育者との関わりを大切にし、慣れるまで主担当制で保育している。</li> <li>・新入園児を迎えても在園児が不安なく過ごせるように、担任のうち1名は持ち上がりとし、進級児が馴染みの担任と一緒に過ごし、スキンシップを取りやすいように配慮している。</li> <li>・年間指導計画は年齢別、4期に分けて作成し、評価、反省を行っている。また、月間指導計画は月ごとに評価、反省を行い翌月の計画に反映させている。</li> </ul>

### I-3 快適な施設環境の確保



- ・日々の清掃は、清掃マニュアルに基づき行われ、また清掃記録表に記録している。
- ・各保育室の窓は大きく、採光は十分であり、午睡後や活動に応じて窓を開け、適宜換気に気を配っている。空気清浄機も備えている。
- ・エアコンと加湿器があり、室温の目安は夏期27度、冬期は22度、湿度70%であるが、活動内容によって快適に過ごせるよう、職員が適宜体感で管理している。
- ・0歳児の食べる・寝る空間はクラスをサークルで分け、その他のクラスは同室で行っているが、交代でランチルームを活用したり、食後手早く清掃をして、午睡空間を作っている。
- ・0歳児保育室に隣接して沐浴設備があり、幼児用トイレ内に温水シャワーを設置し、からだ汚れた時や、汗をかいた時、プールや夏の園外活動後などに使用している。各設備は使用の都度、衛生管理マニュアルに沿って清掃が行われている。
- ・0、1、2歳児は1歳児の保育室、3、4、5歳児は3歳児の保育室を、早朝・延長保育・土曜日の合同で保育の場としている。3、4、5歳児のクラスが可動式の壁で一続きになり、行事などでホールとして活用している。ランチルームがあり、異年齢で給食をとにもすることもある。

### I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・0、1、2歳児と特別に課題のある幼児については、個別指導計画を作成している。個別指導計画は、ねらい、内容、配慮、評価、反省で構成されている。
- ・個別指導計画は、毎月子どもの発達状況に合わせて作成するほか、ランチミーティングや職員会議で話し合い、子どもの発達状況により保護者とも連携をとりながら、必要事項は柔軟に見直している。
- ・子ども一人一人の記録は、生育歴や家庭の状況などを記載した入園時の面接シート・児童票・児童健康調査表（身体測定記録、健康診断）などにまとめて個別にファイルし、職員はいつでも見られるようになっている。
- ・進級時には、児童票などの記録をもとに、年度末に重要事項を次の担任に申し送りしている。

**I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み**



- ・園舎内は、玄関にスロープがあり、身体障がい者用のトイレを設置している。
- ・特に配慮を要する個別のケースについては、毎月開かれる職員会議で話し合い、記録に残している。
- ・南区福祉保健センターから要支援児や保護者の情報を得たり、中部地域療育センター、東部地域療育センター、中央児童相談所と連携し、巡回指導や、設置法人の発達支援担当者の助言を受け、また外部の研修にも参加して、配慮を要する子どもや保護者への対応を学んでいる。
- ・虐待防止マニュアルに、防止のポイント、対応指針、諸機関との連携などの記載があり、全職員が周知して虐待の早期発見・防止を心がけ、子どもの観察で気が付いたことは視診表に記録している。また、虐待が疑わしい場合や明白になった場合は、設置法人、南区福祉保健センターこども家庭支援課や中央児童相談所などと連携体制がある。
- ・職員は、厚生労働省のアレルギー対応ガイドライン、設置法人作成のアレルギー対応マニュアルを基に、ハウスダスト、動物、紫外線など、様々なアレルギー疾患について学んでいる。主治医意見書を提出してもらい、食物アレルギー児については主治医の指示を受け、除去食申請に基づいて、できるだけ見た目には相違のないよう工夫した代替食や除去食を提供している。
- ・外国籍の保護者から入園時に文化や生活習慣の違いで配慮すべきことなどを確認しているが、現在特に必要なことはない。
- ・意思疎通が困難な外国籍の保護者には、南区役所が通訳を手配してくれたり、日本語ができる他の外国籍の保護者が通訳したり、与薬票などの英語版書類の用意がある。

**評価分類**

**評価の理由（コメント）**



**I-6 苦情解決体制**



- ・要望・苦情の受付担当者は園長で、第三者委員の氏名・連絡先や、設置法人の苦情受付連絡先を玄関に掲示して周知している。
- ・他機関の苦情窓口として、南区福祉保健センターの連絡先を「入園のご案内」に掲載して入園説明会で保護者に説明するほか、外部の権利擁護機関として、横浜市福祉調整委員会の連絡先を玄関に掲示している。
- ・保護者の意見や要望は、行事後、場合によっては行事前のアンケート、意見箱、年2回行っている個人面談、保護者会やクラス懇談会で汲み取るように努めている。
- ・アンケートや送迎時の会話、連絡ノートなどで寄せられた意見は、園長に報告して迅速に対応し、職員会議や回覧で全職員に周知している。
- ・園単独で解決が困難な場合は、第三者委員を交えた苦情対応の仕組みや、設置本人の担当部署、地域を統括しているエリアマネージャーを交えての話し合い、また、南区子ども家庭支援課などと連携し対応できる仕組みができており、苦情相談解決フローチャートを事務室に掲示している。



## 評価領域Ⅱ サービスの実施内容

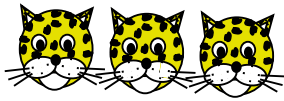
評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各保育室に年齢や興味に合わせた絵本の棚を設け、背の低い収納棚から遊具が取り出せるようになっている。また、子どもの興味や発達によって入れ替えを行っている。保育室は絨毯やゴザ、机などを使って遊びを分け、落ちて遊べるようにしている。</li> <li>・公園や園庭で、「こおり鬼ごっこ」や「しっぽ取りゲーム」などの遊びを通して、ルールを守ることの大切さを学んでいる。また、「ちからたろう」の絵本に子どもたちが興味を持ったことから、劇遊びに発展させるなど子どもの意見や発想を集団活動に取り入れている。</li> <li>・園庭で野菜や植物を育て、成長の過程を観察し、イネやさつまいも、トマトなどを収穫してクッキング保育に取り入れ食育に繋げている。また、保育室に図鑑を備え、カブトムシを飼育して観察したり調べたりして関心を深めている。</li> <li>・子ども同士でトラブルになった場合は、双方の気持ちを受けとめ、うまく表現できない場合は職員が代弁して仲立ちとなり、できるだけ子ども同士で解決できるようにしている。</li> <li>・天気の良い日は毎日散歩に出かけ、発達に応じて距離を変更したり公園の固定遊具を利用し、運動能力を高められるようにしている。雨天時はマットなどを利用して遊んでいる。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの自由な表現活動ができるよう素材や用具、遊具などが、使いたいときに自由に取り出せるように配慮し、子どもが自発的、意欲的に関わられるような環境構成が期待されます。</li> </ul>
<p>Ⅱ－1 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが完食の喜びを味わえるよう盛り付けの量を調節し、野菜が苦手な子どもには「人参さんひとつだけ食べようか」など声掛けし、楽しく食べられるように配慮している。また、旬の食材を使用し、季節を感じる献立や彩り、盛り付けを工夫し子どもが楽しめるようにランチの日を設けている。</li> <li>・3歳児から当番活動で配膳に関わり、月1回のクッキング保育で、年齢に応じて調理に関わるなど体験を通して食に関心を持つようにしている。</li> <li>・栄養士や調理担当者は、ランチルームやクラスでの子どもの食事の様子を観察し、好き嫌いを把握して切り方・形態・調理方法を工夫している。</li> <li>・食の安全に配慮し、ミネラルウォーターや契約農家からの米を使用し、放射能物質検査結果を掲示している。また、献立表、給食だよりの配付や給食のサンプルを展示、行事の際の試食などで食の情報を保護者に提供している。</li> <li>・午睡時は薄暗くして静かな音楽をかけ、背中をトントンするなど安心して眠りにつけるよう配慮している。</li> <li>・0歳児は5分、1歳児は10分間隔で呼吸と体位の状況を確認、記録し、乳幼児突然死症候群防止対策を行っている。</li> <li>・年長児の午睡は就学に向けて年明けからは一斉活動とせず、必要に応じて休息をとっている。</li> <li>・排泄については、散歩に行く前や活動の節目で一斉に声掛けしているが、自分のペースでトイレに行っている。一人一人の排泄リズムはチェック表を用いて把握し、個別に対応している。トイレトレーニングは、園での状況について連絡ノートや送迎時に口頭で保護者に伝え、連携して進めている。</li> </ul>

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・健康管理マニュアルに基づき、子どもの健康状態を保護者から聞き取り、受け入れ時の職員がクラスの「担任伝言表」に記録し把握している。また、看護師が子どもを観察し、気になる様子を保健日誌に記録し、職員が情報を共有している。
  - ・園での子どもの健康状態は、連絡ノートや「担任伝言表」を基に降園時に保護者に口頭で伝え、対応について話し合い翌朝確認している。
  - ・入園時に保護者から「児童健康調査票」の提出を受け、既往症や体質などを把握し、入園後は保護者に確認して更新し、年2回の健康診断、年1回歯科健診結果とともにファイルし事務室に保管、職員はいつでも閲覧可能となっている。
  - ・1歳児の後半ごろから歯磨きを実施し、職員が歯科衛生士から歯磨き指導を受け、1～5歳児まで職員が仕上げ磨きをしている。
  - ・感染症・食中毒対応マニュアルがあり、感染症の知識や登園停止基準、対応などが明記され、入園時に保護者に周知している。
  - ・保育中に発症した時は保護者へ速やかに連絡し、感染が拡大しないように医務室で安静にして看護師や園長が対応し、迎えを待っている。園内で感染症が発生した場合は、玄関や保育室の入り口に病名や潜伏期間、予防について掲示し、保護者に伝えている。
- <工夫している事項>
- ・子どもの健康状態を把握するために、登園時の検温や子どもの様子を、園独自の視診票に記録している。

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



・設置法人作成の衛生管理マニュアルは、月1回の看護師ミーティングで検討し、随時見直しを行っている。見直しを行った結果は園での衛生管理会議で報告、職員に周知している。

・毎月の衛生管理会議で、マニュアルの確認や、季節ごとに必要な事項の再確認を行い、全職員が情報を共有している。また、看護師によるインフルエンザ、ノロウィルスの対応の仕方について園内研修を実施している。会議や研修に参加できなかった職員には議事録の確認とサインを徹底し、主任が説明している。

・マニュアルに基づき清掃チェック表を活用して、毎日掃除漏れがないようにしている。職員は毎日就業前に衛生チェックを行い、給食室は定期的に清掃が行われている。

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]




・布団庫やロッカーは、ねじや突っ張り棒、滑り止めシートなどで転倒防止策をしている。事故防止チェックリストに基づき、毎日室内・外の安全チェックを行っている。また、設置法人の安全委員による安全チェックを年3、4回受けている。

・事故防止対応マニュアルがあり、事故・災害時の緊急連絡体制、フローチャートを事務所に掲示し、速やかな対応に備えている。また、毎月1回、訓練目標を定めて、火災、地震、津波などを想定した消火・通報・避難訓練を行っている。

・保護者の緊急連絡表の作成や、医療機関・警察・消防などの連絡先一覧を掲示し、保育中のケガや事故に備えている。ケガがあった場合は看護師が対応し、職員が状況などを保護者に口頭で説明している。また、保健日誌やアクシデントレポートに記録し再発防止策を検討している。

・警備会社と契約し、玄関は電子錠で施錠し、防犯カメラを設置して、来訪者をインターフォンで確認して開錠している。不審者侵入の対応策として、年1回、訓練を実施し不審者を発見した場合の対応について職員間で共有している。


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は入職時や年度初めに業務マニュアルの読み合わせを行い、子どもの人格を尊重した対応を心がけている。また、職員会議やランチミーティングで、子どもの自尊心を傷つけるような保育を行なわないよう、その都度話し合い、共通認識を持っている。</li> <li>・職員は個人情報の取り扱いや守秘義務について入職時に研修を受け、入・退職時に全職員が守秘義務について誓約書を提出している。ボランティアや実習生には守秘義務について誓約書の提出を定めている。</li> <li>・個人情報の取り扱いについては、入園時の保護者会で説明し、ホームページに子どもの様子を画像掲載することについて、書面で同意を得ている。個人情報に関する記録は事務室の施錠できるロッカーに保管している。</li> <li>・遊びや生活発表会での劇の役割などは性別による区別はせず、子どもの意向で決めている。また、職員会議で性差について話し合い、職員に不適切な言動があった場合は、職員同士が注意し合っている。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの気持ちに配慮して、他の視線を気にせず落ち着いて過ごせる場所の確保が望まれます。</li> </ul>

II-4 保護者との交流・連携






- ・保育の基本方針は、入園説明会や保護者会、懇談会で説明している。また、年度末には保育方針が理解されているかを知るためのアンケート項目を設けて、理解度の把握に努めている。
- ・クラスの「担任伝言表」に全員の子どものその日のエピソードを記入し、保護者に口頭で伝えている。また、0、1、2歳児は連絡ノートで、3歳児以上の希望者には個人ノートを用意してもらい、家庭での子どもの様子と園での対応をきめ細かく情報交換している。
- ・個人面談は年2回1週間の期間を設けて、保護者の希望の日時で実施している。また、保育参観・参加は年2回、都合の良い日程を選びクッキング保育や体操などの参観、子どもと一緒に製作、紙芝居を読んでもらう保育参加を実施している。
- ・0、1、2歳児はホワイトボードに、3、4、5歳児はクラスノートにその日の活動を記載している。また、園内での写真掲示や設置法人のホームページで行事や子どもの様子などを掲載し保護者に伝えている。
- ・夏まつりの準備や、保護者がクリスマス会で演奏する合奏の練習場所を提供し、夏まつりの準備では保護者と職員と一緒に活動している。

評価領域Ⅲ 地域支援機能


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に加入し、地域住民と交流する中で、園長、主任が保育園への要望などを聞いている。また、夏まつりや運動会に招待した地域住民や「わくわくる一む」、「大人講座」の参加者から地域の子育て支援ニーズを把握している。</li> <li>・年度初めの職員会議やランチミーティングで「大人講座」や「わくわくる一む」など地域支援について、内容や計画を検討している。今年度は6月から2月まで毎月1回、「わくわくる一む」を開催し、子育て中の親子同士が交流し、季節にちなんだ製作などを楽しんでいる。また、看護師による育児相談、栄養士による栄養相談を行っている。ママコーチングや夜泣き専門保育士による「大人向け講座」はNPO法人の協力を得て、年間8講座6日間開催し、全職員が情報を共有して、企画担当、広報活動を行い、園全体で専門性を活かした地域支援に積極的に取り組んでいる。</li> </ul>
<p>Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の商業施設や、井土ヶ谷駅近くの掲示板に「行事のご案内」を掲示し情報提供している。また毎週水曜日、午前中に、育児相談を実施している。「わくわくる一む」に参加する地域の保護者からは、育児や栄養に関する相談を受けている。</li> <li>・南区子ども家庭支援課や保健師、南部地域療育センター、中央児童相談所など関係機関は一覧表にして玄関・事務室に掲示しどの職員も連絡が取れるようにしている。</li> <li>・関係機関との連携は主に園長・主任が担当するが、相談を受けた職員が対応できるように、日常的な連絡は担任が行っている。</li> <li>・南区子ども家庭支援課の担当職員や保健師とは常に情報交換を行っている。南部地域療育センター、中央児童相談所など関係機関とは週3~4回は連絡を取り合い、子どもや保護者についての状況報告するなど連携している。</li> </ul>





## 評価領域Ⅳ 開かれた運営




評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の夏祭りや運動会に、地域の方や「わくわくる一む」の参加者を招待している。</li> <li>・近隣の商店には挨拶を励行し、散歩時の声掛けやハロウィンなどの行事に協力してもらっている。園長・主任が自治会の餅つきに参加するほか、散歩時に職員がゴミを拾って歩くなど、近隣との関係を大切にしている。</li> <li>・「わくわくる一む」、「大人講座」の開催に施設を開放し、ワールドポーターズで開催する「共育フェスタ」に、園のマット、机など備品を貸し出している。</li> <li>・年長児が、井土ヶ谷小学校や大岡小学校を訪問して一緒に給食を食べたり遊ぶなどの交流を持つほか、井土ヶ谷小学校の運動会に参加している。</li> <li>・5歳児が電車に乗って弘明寺にある南区図書館を利用している。また、大岡地域ケアプラザを訪問し、デイサービス利用の高齢者と交流の機会を持っている。</li> <li>・保護者が地域の催しに参加できるように、井土ヶ谷小学校で開催されるバザーなどのポスターを貼って知らせている。</li> </ul>
<p><b>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園のパンフレットを南区役所に置き、設置法人のホームページに園の概要や利用料金などとともに、保育の様子を写真つきで掲載し、期ごとに更新している。</li> <li>・近隣の商業施設、井土ヶ谷駅近くの掲示板に「行事のご案内」を掲示している。</li> <li>・入園希望の問い合わせがあった時には、見学が出来ることを伝え、できるだけ入園する子どもと同じ年齢の子どもの保育を見てもらえるように提案し、電話で時間を相談している。</li> <li>・見学者には、園の運営理念やサービス内容、料金や職員体制などについて詳しく記載した「入室のご案内」を渡し説明している。</li> </ul> <p>&lt;コメント・提言&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の媒体を通して、将来の利用者に広く情報提供されることが望まれます。</li> </ul>
<p><b>Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア受け入れマニュアル・実習生受け入れマニュアルがあり、受け入れの基本的な考え方・方針について職員は周知している。それぞれ受け入れに際しては、オリエンテーションを行い、園の基本方針や、守秘義務、配慮事項などを伝え、保護者にも紹介している。</li> <li>・保育士を目指す学生のボランティアを受け入れ、土曜日の保育や行事の手伝いなどを通して、毎回感想文を書いてもらい、感想や意見を職員と共有している。</li> <li>・保育士養成校と連携をとり、実習生を受け入れている。学校側の要望に沿った実習プログラムを立て、実習経過は実習生生活動記録に残している。</li> <li>・実習中毎日、担当職員と反省会を開き、終了時は感想文の提出を求め、意見は職員で共有し、保育の見直しや気づきの機会として保育に活かしている。</li> </ul>

## 評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>V-1 職員の人材育成</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長は園運営に必要な人材や配置状況を把握し、不足の場合は設置法人に要請して人材補充を行っている。</li> <li>・職員は、入職時の代表研修で法人理念について研修を受けて、求められる職員像を周知している。</li> <li>・設置法人作成の人材育成計画があり、年間階層別研修計画と自由選択研修計画を作成し、常勤・非常勤職員とも研修に参加できる体制になっており、必要な研修に参加している。横浜市の研修会にも年間を通して参加している。</li> <li>・職員は研修後レポートを提出して職員会議で報告し、また、研修の成果を保育で活かしている。</li> <li>・職員は、年間自己目標を立て、半期に1度振り返り、同時に園長は個別面談を行って目標の達成度を把握し、評価を行っている。</li> <li>・園長は職員との面談で研修成果について話し合い、必要な研修の見直しを行っている。</li> </ul>

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>V-2 職員の技術の向上</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画の期毎、月間指導計画、週案、保育日誌の書式を定型化し、それぞれに振り返りや評価・反省の記入欄を設けている。</li> <li>・計画・目標に対して、振り返りを行ない、園長は、評価・反省欄に、子どもの育ちや意欲、取組過程などについての視点で記入するよう指導している。</li> <li>・職員は、前月の振り返りをもとに子どもの成長に合わせて次の目標を立て、自己目標の達成度と合わせて評価し、改善に取り組んでいる。</li> <li>・職員は年3回の査定・昇級時に、園長と面談を行い、個人目標wお振り返り、達成度と次の課題を確認している。</li> <li>・職員会議やランチミーティング、クラス毎のミーティングで、職員の振り返りをもとに話し合い、疑問点や問題点などの改善に、継続的に取り組んでおり、話し合いの中から、行事の運営方法や、予測・見通しをもった保育をすることを課題として、改善に向け取り組んでいる。</li> <li>・毎年全職員で、第三者評価項目を活用して理念、保育方針、保育課程を踏まえた自己評価を実施し、それらを園の自己評価としてまとめている。</li> <li>・設置法人は、保育技術の指導を外部専任講師や専門家から受ける仕組みを作っている。保育士経験のある大人講座の講師や、夜泣き専門保育士などから保育技術の指導を受けている。</li> </ul>
<p><b>V-3 職員のモチベーションの維持</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置法人は、職制と経験年数別の期待水準を明文化している。</li> <li>・園長は職員の能力を判断して可能な限り現場職員に権限を委譲し、緊急時や園長不在時には担当職員の判断に任せて、事後、園長に報告、最終的な責任を園長がとる体制となっている。</li> <li>・職員に行事後のアンケートをとり、職員会議やクラス毎のミーティングなどで話し合い、業務改善の提案を聞いている。</li> <li>・園長は、査定時の面談以外にも随時職員と個別に面談し、職員の満足度・要望を確認している。</li> </ul>

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業規則に職員の守るべき倫理・サービス規程を明文化し、全職員に周知している。設置法人にコンプライアンス委員会があり、不正は直接通報できるしくみがある。</li> <li>・他施設での不正事案などの情報は、設置法人より随時連絡があるほか、園長会議などで検討して園に持ち帰り、職員会議で話し合っている。また、園長が新聞の記事を集め、ノートに貼って回覧し、職員のモラルアップを図っている。</li> <li>・牛乳パック、空き箱やトイレットペーパーの芯などの廃材をストックし、子どもたちの製作や、おもちゃや教材遊具の作成に利用している。また、エコキャップ活動に取り組んでいる。</li> <li>・ごみを減らすことを園目標に掲げ、散歩時のごみ拾いなどを積極的に行っている。法人としてのリサイクルやエコへの取り組みについて、ホームページに明文化されている。</li> </ul>
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長は、日常の保育の様子や会議での発言などを通し、また年3回以上職員と個別面談し、職員の理念・基本方針などについての理解度を確認している。</li> <li>・保護者からの意見要望や、アンケートに寄せられた意見などに対して、園長は保護者と丁寧に意見交換をしている。</li> <li>・重要な意思決定をした例として、親子遠足の交通手段について、保護者の負担を考え、貸切バスを利用するかしないか、ということについて職員会議で討議を重ね、保護者に対しては理由や実施方法などのアンケートをとり、途中保護者会で説明しながら最終決定している。</li> <li>・主任は各クラスを見回り、個々の職員の心身の健康状態に気を配り、業務状況を把握して、シフトの調整を行なっている。また、個々の職員の様子を見て、指導・助言をしたり、園長に提案をしている。特に、非常勤職員の育成や伝達を担っている。</li> </ul>
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業運営に影響のある情報収集・分析は設置法人の担当部署で行っており、園長会議で伝達され、職員会議やランチミーティングで全職員が共有している。</li> <li>・中長期的に園運営を展望する計画（五か年計画－生きる力を育てる保育、保護者の支援、地域に開かれた保育園）を定めている。保護者支援の「わくわくの一む」の実施について、開催曜日変更が可能かどうか検討を重ねている。</li> <li>・設置法人は、業界関連機関や専門家などから意見を収集し、運営に生かしている。</li> </ul>

# 利用者家族アンケート

施設名:アスクいどがや保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

## 結果の特徴

### ◇ 調査対象

調査時点での在園児数82名、全保護者85家族を対象とし、回答は46家族からあり、回収率は54%だった。

### ◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収した。

### 【特徴の記述】

(満足・やや満足を合計した数字を満足度、不満・やや不満の合計を不満足度とする。)

### ◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、総合満足度100%(満足67%、どちらかといえば満足が33%)であった。

### ◇ 比較的満足度の高い項目

#### 1)「問4 日常の保育内容について」

「遊びについて」では、平均満足度94%であり、特に、子どもの日常の遊びや、遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては、98%と高い評価を得ている。

「生活について」も平均満足度は、94%であり、なかでも、「給食の献立内容については」の満足度は100%、「基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては」で98%の満足度となっている。

2)「問7 職員の対応について」の平均満足度は95%で、「あなたのお子さんが大切にされているかについては」の項目では100%の満足度であった。

### ◇ 比較的満足度の低い項目

1) ほぼ全項目で高い満足度であるが、その中で、「問6 園と保護者との連携・交流について」の園の行事の開催日や時間帯への配慮については、13%の不満足意見があるので、さらなる検討が望まれる。

## 調査結果

### ■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	32%	37%	20%	9%	2%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

#### 付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	84%	16%	0%	0%	0%	0%

### ■施設のサービス内容について

#### 問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	46%	22%	2%	2%	24%	4%
	その他：開設園だったので見学していない					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	48%	37%	4%	2%	9%	0%
	その他：					
園の目標や方針についての説明には	48%	41%	9%	2%	0%	0%
	その他：					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	59%	35%	2%	4%	0%	0%
	その他：					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	50%	43%	7%	0%	0%	0%
	その他：					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	48%	35%	13%	2%	0%	2%
	その他：					

#### 問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	54%	33%	9%	2%	2%	0%
	その他：					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	53%	39%	2%	2%	4%	0%
	その他：					



#### 問4 日常の保育内容について

##### 遊びについて

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	78%	20%	0%	0%	0%	2%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	56%	35%	7%	2%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	64%	28%	4%	2%	2%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	63%	28%	7%	2%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	68%	30%	2%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	62%	30%	4%	0%	2%	2%
	その他:					

##### 生活について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	80%	20%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	72%	24%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	70%	28%	2%	0%	0%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	68%	28%	0%	2%	2%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	61%	24%	4%	0%	7%	4%
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	74%	20%	2%	2%	0%	2%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	70%	17%	11%	0%	2%	0%
	その他:					

### 問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	63%	33%	2%	0%	2%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	61%	35%	2%	0%	0%	2%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	68%	17%	9%	2%	4%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	56%	33%	7%	4%	0%	0%
	その他:					

### 問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	59%	37%	0%	0%	4%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	63%	26%	7%	0%	2%	2%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	63%	24%	13%	0%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	52%	35%	9%	2%	2%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	59%	28%	11%	0%	0%	2%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	55%	37%	4%	0%	2%	2%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	75%	17%	0%	0%	4%	4%
	その他:					

### 問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	76%	24%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	78%	20%	2%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	61%	28%	0%	0%	7%	4%
	その他:アレルギーでないので分からない					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	72%	24%	2%	0%	2%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	61%	33%	0%	0%	2%	4%
	その他:					

### 問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	67%	33%	0%	0%	0%

## 観察方式による利用者本人調査

### アスクいどがや保育園

#### ◇0 歳児

##### 食事

子どもたちはテーブルに向って座り、職員に一人一人エプロンを付けてもらっている。自分で出来る子どもは「〇〇ちゃん上手」とほめられて嬉しそうな表情になる。職員と一緒に給食の歌をうたい、「いただきます」をした後、名前を呼ばれてご飯やおかずが配膳されると、手づかみで食べ始めた。職員は、そばで見守りながら、スプーンにおかずを載せて手渡したり、ご飯を食べやすいように集めて、子どもたちが自分で食べられるように援助している。職員から「上手、上手」「大きいお口、おいしいね」「両手で持ってください」と言葉をかけられ、子どもたちは手や口の周りにご飯やおかずを付けながらも満足そうに自分のペースで食べていた。

##### 排泄

職員は「きれいにしようね」と声をかけ、おむつ替えシートの上で子どもは立ったまま紙パンツを手早く替えている。「今日のシャツは黄色だね」「おズボンは自分で出来るかな」と言ってズボンを置くと、子どもは職員のそばに座り、自分ではこうしていた。

##### 午睡

「おもちゃ、ないないしようね」と職員の声掛けで、子どもたちは電話や太鼓、ぬいぐるみなどをカゴに片付けている。カーテンを閉め、薄暗くなると「おやすみなさい」と声を掛けられ、背中をトントンしてもらったり、さすってもらったりしながら静かな音楽の中で眠りについていた。

#### ◇1 歳児

##### 戸外遊び

子どもたちは職員から「今日は井土ヶ谷中町公園にお散歩に行きますよ」と説明を受け、帽子とコートを自分で着ようと頑張っている。

玄関で数人の子どもが自分で靴を履いている。職員はそばで見守り、「靴、はけるかな」「できるところまでやっごらん」と声掛けし、はけない子どもに、「こっちに足を入れて」と自分で出来るように援助している。子どもたちは「はけた、はけた」「できた、できた」とうれしそうに知らせ、みんながはけるのを待っていた。一人一人階段の手摺りにつかまってゆっくり降り、数人の子どもはバギーに乗り、他の

子どもは職員やともだちと手をつないで散歩に出かける。交番横のパトカーを見つける  
と「パトカーだ」「ピーポーよ」「ピーポいたね。バイバイ」と手を振っている。

公園に着くと「はっばだ」「きいろい」と言いながら指さし、職員と一緒にチューリップの歌を口ずさんでいる。職員から「ブランコはもう少し大きくなってからのろうね」と言われて、職員のところまで走ったり、鉄棒にぶら下がったり、職員が地面に書いた丸の中で「ケンケンパ、ジャンプ、ジャンプ」と言いながら体を動かして楽しんでいた。

地域の親子連れが遊びに来ると、砂場の道具を貸してもらい、「みんなと遊べていいね」「2歳なの」と会話を交わし一緒に遊んでいた。

## ◇2 歳児

### 食事

子どもたちは配膳台に自分でおかずをとりに行く。職員が盛り付けたおかずをこぼさないように、そっと持って自分の椅子に座る。「ご飯ありますか」「味噌汁はありますか」と職員が聞くと、そのたびに子どもたちは「あるー」「はい」と答えていた。子どもたちはお箸やフォークを使って魚や野菜を上手に口に運ぶ。野菜が苦手な子どもに職員が「少しだけでいいよ。おいしいよ。食べてごらん」と声掛けすると、箸でちよっとだけつまんで食べる。「すごい、すごい」と褒められてにっこりしていた。お代わりは、職員がそばに行って「どれお代わりしたい？」と聞き、「これ」と指差して伝えていた。

## ◇3 歳児

### 遊び

机のコーナーでは子どもと職員が発表会のプログラムを作っている。子どもたちは順番に呼ばれて職員と一緒に机に向かい、真剣な表情で製作に取り組み、「カエルできたね」と嬉しそうにしていた。

絨毯のコーナーでは線路を繋げ、電車を走らせている。数人の子どもたちが自分も電車になりきって線路に沿って走ったり、電車を持って走ったりしている。

ゴザのコーナーでは、ままごとや人形、バッグなどを使って子どもたちが楽しそうに遊んでいる。職員はそばでそっと見守り、遊びに入れられない子どもの様子を見て必要な時に声掛けしている。しばらくすると、大きな布をテーブルに見立て、周りに子どもたちが集まり、それぞれお皿やカップにごちそうを並べて、給食ごっこになった。遊びに入れなかった子どもも仲間に入り、楽しそうに遊んでいた。

## ◇4 歳児

### 遊び

生活発表会の劇の練習の後、昼食までの時間屋上で遊ぶことになり、「やったー」と喜んでいる。屋上への階段の踊り場に置いたチューリップの球根の鉢植えを見ながら、



1列になって上っていく。点呼の後、子ども達はそれぞれ好きな遊びに散らばっていく。

鬼ごっこのようにしばらく走り回った後、自然と「だるまさんが転んだ」が始まる。鬼に指名されたいので、ルールがめちゃくちゃになっている。どんどん鬼に近づいていってしまうのを笑顔で見ていた職員が、「せんせいもいーれて」と加わると、自然とルールのある「だるまさんが転んだ」になった。

滑り台遊具を、乗り物に見立てて遊んでいる子たちもいる。

砂場を覆うシートに水がたまっているので、砂遊びはしない予定だったが、子どもたちの要望で、半分シートをめくって使うことになった。黒く湿った砂に、「いつものと違うねー」「掘ったら、水が出てきた」「コーヒー牛乳みたい」などと言いながら、感触を確かめている。三角すいの容器に砂をこんもりと詰めて、「これ、なんでしょーか？」と調査員に尋ねてきた子に、「ソフトクリームかな？」と応えると、「何かけてほしい？イチゴとか？」と言って、うれしそうに砂でトッピングしてくれた。

## ◇5 歳児

### 食事の準備

5歳児のお当番が三角巾とエプロンをつけて、一人一人の名前がついたトレイを配っている。職員から「お当番さんがやりやすいように手はお膝においてね」と言われ、子どもたちは背中をピンとして、配膳してくれるのを待っている。当番の2人がご飯とみそ汁をよそいお盆にのせて、こぼれないように真剣な表情でトレイの上に配膳していく。

配膳が終わると職員に「減らしたい人は今のうちに来てくださーい」と言われ、数人の子どもが配膳台に向かい「あんかけの人参は少しにして」「切り干し大根は少しでいい」と調節している。職員が「ちょっとずつお野菜食べようね」「どうして減らすのかな？お外に行くときパワーが出なくなっちゃうね」などと話すと、「この位なら食べられる」と子どもは納得して席に戻っていった。当番がリードして、みんなで給食の歌をうたい、「頂きます」をしていた。

### 生活発表会の劇の練習

「劇の練習をします」の職員の声に、子どもたちは劇で使う小物を用意している。準備が整い、廊下で出番を待つ間「〇〇したら、出るんだよね」「そう、〇〇の後ね」と、真剣な顔でお互いに確認をしている。音楽がなり、自分の出番になって保育室の中の舞台に登場する。職員に拍手で迎えられ、子どもが少し照れながらセリフを言うと、「もうすこし、元気よくね」「そうそう、上手だよ」と職員に励まされて、声も大きく、表情も自信に満ちた元気いっぱいの「ちからたろう」になっていった。

## 平成24年度第三者評価事業者コメント(アスクいどがや保育園)

### 【受審の動機】

公正で信頼性のある第三者機関に評価していただくことにより、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」という理念が当園においてどれほど反映できているかを振り返り、また、職員一人ひとりが自身の保育を見直し、より良い保育サービスを提供するための課題を明確にするため、今年度も受審いたしました。

評価機関の選定につきましては、昨年度と同じ評価機関に依頼し一貫した調査を受けることで、結果の比較がしやすく継続的な改善ができると考えております。

開園2年目を迎え、職員一同より質の高い保育サービスを意識してまいりました。その取り組みが利用者・第三者からどのように評価されるか、また職員一人ひとりの保育姿勢を見つめ直す絶好の機会ととらえ、今後の保育運営に生かしてまいります。

### 【受審した結果】

第三者評価を受審し、職員一人ひとりが自身の保育力を見直し、同時に園が目指す方向性を再確認することができました。

昨年度、子どもの様子についての情報提供など、職員と気軽に話せる関係作りについてご意見をいただきました。それを踏まえ、今年度は職員間で子ども一人ひとりの様子を共有する「担任伝言表」を設け、園全体で子どもを見守る保育を意識してまいりました。今回の利用者調査において、「お子様が大切にされているか」の項目で100%となったことも、そのような改善の結果だと考え、引き続き利用者のニーズに応える保育をしてまいります。

また、「地域との交流・地域支援」の項目において、昨年と同様、積極的な関わりを評価していただきました。園の行事に地域の方々を呼んで園児と交流するほか、「大人講座」という育児講座を開催し、園内だけでなく地域の方々も利用できる取り組みを今後も継続的に実施し、地域に根付いた保育園作りをしてまいります。

今後も、広い保育園を生かした玩具・配置等を整え、子どもたちが伸び伸びと生活できる環境を作っていくと同時に、職員同士また職員と保護者の皆様と連携をとり、継続的な地域交流をしていくことで、利用者の皆様・地域の方々に愛される園であり続けるよう努めてまいります。

最後に、今回の第三者評価受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、ご多忙にもかかわらず利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。